

まちづくりNEWS

旭川市総合計画市民検討会議

第2分科会 vol.2
平成26年8月21日

(発行元)
旭川ウェルビーイングコンソーシアム
旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階
TEL/FAX 26-0338
(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

旭川市総合計画市民検討会議 第2分科会(教育・文化)の第2回会議が行われました！！

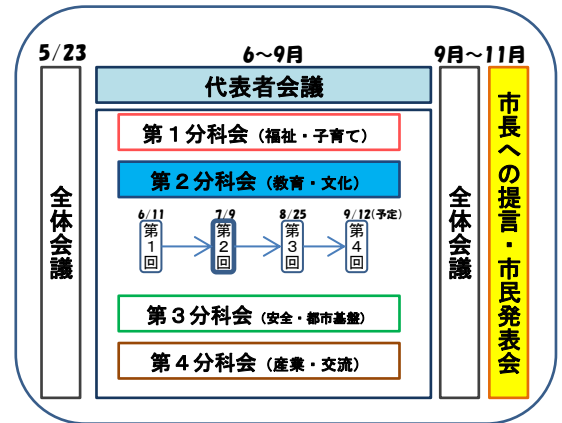
この第2分科会では、平成28年度以降の新たな総合計画の策定に向けた提言を行うため、これからの旭川市の「教育・文化」について検討を行っています。

今回の第2回分科会では、団体推薦委員と公募委員合わせて4人の委員から「～旭川をより良いまちにするために、私たちの立場から提言できること～」をテーマに意見発表を行い、その後、意見交換を行いました。

以下、4人の委員による提言を紹介します。



市民検討会議の主なスケジュール



委員提言要旨①

「団塊世代を中心とするリタイヤ人材の有効活用を」

- リタイヤした人達に活動の場を提供することが重要
- 市民の誰もがいつでも集える場を作り、サポートすることが重要
(例) 若い父母への援助(子育て相談等)、適齢期の男女への援助(気軽な結婚相談)、中高齢者への援助(他世代との交流の場)など

★リタイヤした人達の気持ち

自分の能力をどこかで発揮したい。社会のために役に立ちたいが、どこに相談して良いか分からない。

活動を進めるためには・・・

リーダーの養成、活動場所の確保、活動資金、公的機関との連携、既存組織との連携などが重要



委員提言要旨②

「旭川市」と「看護大学教育」を結び
～次世代をつなぐ医療の人材育成に向けて～

- 大学教育と旭川市をどのように結ぶのが課題
- 看護教育は、深い人間理解と豊かな人間性、正しい倫理観が重要であり、大学教育によることが必要
- 大学生は、社会人基礎力が低いが、見方を変えて良い面を見ることが重要
- 学生は、地域や市町村等とのつながりといったネットワークの中で成長する。
- 大学や臨床のみならず、多様な人材と出会い、学習の場を拡大していくことで、旭川のことを好きになる。
- 今後も看護職としての資質向上を目指して学生の育成に取り組んでいきたい。



委員提言要旨③

「提言1 キャリア教育の推進」

- 具体的方策1-1 地場産業や地元企業を知る（体験する）キャリア教育の推進
- 具体的方策1-2 「キャリア教育連絡協議会」（仮称）の設置
- 具体的方策1-3 「キャリア教育支援本部」（仮称）の設置
- 具体的方策1-4 地場産業の後継者育成に関する学校・学科の設置



「提言2 学校改革の推進」

- 具体的方策2-1 民間出身校長の採用
- 具体的方策2-2 管理職の1校在任期間の延長（2年→4年）
- 具体的方策2-3 学校評価制度の見直し（保護者および一般教諭による管理職の評価を追加）
- 具体的方策2-4 学校選択制の実施
- 具体的方策2-5 学校経営計画の3月発表および発表会の実施
- 具体的方策2-6 特認制度の見直し



委員提言要旨④

- 各学校のPTAとしてできることとしては、家庭・学校・地域との連携による地域の活性化がある。
（例）積極的な地域行事への参加、地域の方との安全・安心なまちづくり、学校行事への参加 など
- 市PTA連合会としてやっていることは、イベントへの積極的な参加や親・先生への学びの場を作ることなどがある。
（例）歴史と伝統の親子共有、地場産業の職場体験、自然を生かしたイベント主催、地域連携・子育てにおける学び など
- 教育環境の充実
（例）市教委や元教員との懇談会 など



主な意見内容

- 若い世代は忙しいため、ある程度の年齢になり、悠々自適に暮らしている人に活躍してもらわなければ、人口減少が進む中であっては、社会がうまく回らなくなる。
- 窓口が利用しにくいからといって新たに設けるのではなく、利用する側の意識の問題もある。
- 既存のものをどのように活用するか。現状を分析しながら良い方向へ変えていく提案ができれば良いと思う。
- 大学において、地域住民や学生を含めみんなで学び合えば良い。
- 互いに議論しながら何が正しいのかを導き出すこと。「対話」が重要であり、「対話」から生まれることがある。
- 人と人とがつながりを上手に築きながら目的を達成できるような人材育成を目指すべき。
- キャリア教育の必要性は認めるが、具体的に効果を上げた事例を紹介した方が良い。キャリア教育に時間をかけすぎると他の時間が減るので、要はバランスの問題だと思う。
- 家庭教育が重要である。
- 広告には伝達力、やる気を起こさせるパワーがある。広報力がなければ宝の持ち腐れになることもある。
- 体験活動が重要。異世代との交流で子どもはコミュニケーション能力を向上させ、職業についても学ぶことができる。間接的に子育て支援にもつながる。
- 親は忙しいので地域に頼る。そして親は世話になった分だけ、地域に恩返しする。何か課題があれば、地域で良い循環が生まれると思う。
- 社会に適應できる人材を育てるのが学校であるということではなく、家庭事情、得意な分野、発達状況など、子どもによって状況は異なる。それらを総合的に踏まえた上でグローバルな視点に立ち、教育を考えていくべき。

○次回の第3回分科会は8月25日(月)18:30～ フィール旭川7階 旭川市まちなか市民フラザ
旭川市シニア大学講座室で開催します。
第2回に引き続き、5人の委員から提言発表を予定しています。